



Embassy
of the Republic of Poland
in Tokyo



2021年1月28日

ニュース・リリース

ポーランド選手団——1964年東京オリンピックでの活躍

いよいよオリンピックの年になりました。1964年に開催された東京オリンピックは、ポーランド五輪選手団の歴史において、最大の成功を収めた出場機会の一つでした。獲得メダル数の点からはモスクワ・オリンピックが最多でした（獲得メダル数32）が、メダルの価値を考慮に入れると、東京オリンピックは、獲得メダル数の点で、モントリオール、ミュンヘン、アトランタと並んで、最も意義ある大会となりました。私たちの国のスポーツ選手は、金メダル7個、銀メダル6個、銅メダル10個（計23個）を手に東京を後にしました。ポーランド・オリンピック選手の成功の源になったのは、間違いなく、東京における完璧な五輪開催、そしてイベント主催者が確保した好条件です。当時のポーランド・スポーツ選手の思い出にはしばしば、日本人の歓迎ぶり、美味で健康な日本料理、五輪村の素晴らしい雰囲気について、それを褒めたたえる意見が聞かれます。とはいえ、回想のなかに最もよく登場するのは、日本の現代性、快適さ、豊かさへの賛嘆の念で、なるほどこれらの特徴によって日本という国は戦後復興の象徴として、当時の全世界から認められていたのです。



東京オリンピック（1964）で金メダルを獲得した選手	
氏名	競技
ユゼフ・グルジェン	ボクシング（軽量級）
イエジ・クレイ	ボクシング（軽中量級）
マリアン・カスプシク	ボクシング（ウェルター級）
ユゼフ・シュミト	陸上（三段跳び）
テレサ・チェブウイ、イレナ・キルシェンシュティン、ハリナ・グレッツカ、エヴァ・クウォブコフスカ	陸上（リレー、4 x 100 m）
ヴァルデマル・バシヤノフスキ	重量挙げ（軽量級）
エゴン・フランケ	フェンシング（個人フルール）

オリンピックを主催した東京が用意した素晴らしい条件と雰囲気に加えて、ポーランド人選手の成功の要因を成したのは、万全のトレーニング、天賦の才、長年にわたって培われた運動能力でした。これらすべての要素あってこそ、東京におけるポーランド人五輪選手団の成功の多くは、ポーランド・スポーツの歴史にいつまでも刻まれるものとなったのです。その一つが、短距離と走り幅跳びが専門の、傑出したポーランド人女性陸上選手イレナ・シェヴィンスカが獲得した3つものメダルでした。ポーランドの若い陸上選手はすぐに日本の観客のお気に入りとなりました。その素晴らしい成績により、その後ほとんど毎年さまざまなスポーツ大会に参加するなど、日本をたびたび訪れるようになりました。現役時代にはなんと10回も世界新記録を更新し、引退後は12年間にわたってポーランド陸上連盟会長を務めました。1998年からは国際オリンピック委員会の会員でもありました。ポーランド・オリンピック委員会副会長であった彼女は、2017年10月に当時ポーランド訪問中だったポーランドを心底愛する中曽根弘文参議院議員との歓談を懐かしく

回想しています——お二人はスポーツ交流や東京オリンピック（2020年に開催の予定でしたが、2021年に延期されました）開催準備における協力などについて話し合われたそうです。

東京でメダルを獲得したもう一人の記憶に値する陸上選手は、ユゼフ・シュミトです——オリンピックの金メダルを前回大会から連続して獲得した、ポーランド史上最初の選手です。このスポーツ選手は、今でも、三段跳び、走り幅跳び、その他の陸上競技種目でメダルを獲得するという万能さによって、記憶に鮮やかです。

エゴン・フランケもまた記憶に値する選手です——彼はフェンシングのオリンピック・メダルを獲得した最初のポーランド人です。1964年にポーランド人が最も多くのメダルを獲得したスポーツ種目はボクシング（7個）、陸上競技（8個）、重量挙げ（4個）といった、ポーランド運動選手が過去においても現在においても多くの成功を収めている種目です。ポーランド選手団にとっての大きな喜びはまた、女子バレーボール選手が獲得した銅メダルでした。

東京はポーランド人バレーボール選手がたくさん成功を収めてきた場所です——2006年に世界選手権金メダルを獲得したことを思い出すだけでも十分でしょう。ポーランド・バレーボール・チームは現在の世界チャンピオンで、このタイトルを2014年と2018年と続けて獲得しています。ポーランド人スポーツ選手がこの種目で収めている成功は日本で有名でまた高い評価を受けていますが、その証左に日本のバレーボール・チームと契約している選手もいます。2018年に金メダルを獲得したバルトシュ・クレクは、再び日本での生活を始めました——彼は、来シーズンは名古屋ウルフドッグスでプレーします。

東京オリンピックにおいてポーランド人スポーツ選手が収めた多くの成功は、コーチ陣の素晴らしい直観の賜物でもあります。例えば、ポーランド・ボクシングチームのコーチは、ある種目に経験豊富で3回ヨーロッパチャンピオンになっているレシエク・ドロゴシュを出場させるか、若くて戦闘的なマリアン・カスプシクを出場させるか迷っていたという逸話があります。オリンピック前の闘いはドロゴシュの圧勝でしたが、トレーナーは納得しませんでした。決断を下す前夜（ツェントニェヴォでの強化合宿でのことです）、彼は二人のボクサーの部屋を覗き込みました。カスプシクはぐっすり

と眠り、ドロゴシュはベッドで輾転反側していました。もうトレーナーにはわかっていました。彼はカスプシクに賭け、実際東京で圧勝して金メダルを獲得しました。彼などのおかげで、1964年10月23日に、ポーランド国歌「ドンブロフスキのマズレク」は日本の首都で3回も奏でられたのです。

新型コロナウイルスが蔓延していますが、来年の東京オリンピックに向けてのポーランド選手団の準備は続いています。それは、主にヴァルチのオリンピック・センターで行われていますが、ポーランド人選手はヨーロッパや世界のその他の場所でもトレーニングしています。1年後の今ごろ、私たちは、東京が今回もポーランド人スポーツ選手に微笑んでくれるか、彼らがここから1964年と同じような、あるいはもっと多くの数のメダルを手に帰国するかどうか、知っていることでしょう。

文責：駐日ポーランド共和国大使館

駐日ポーランド共和国大使館

<https://www.gov.pl/web/japonia/ambasada>

tokio.amb.sekretariat@msz.gov.pl

Twitter: @PLinTokyo

Facebook: <https://www.facebook.com/Ambasada-RP-w-Tokio>

ポーランド広報文化センター

<https://pl.institut-polski.org/>

tokio@instytutpolski.org

Twitter: @PLInst_Tokyo

Facebook: <https://www.facebook.com/InstytutPolskiTokio/>